

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		佐野市の青少年とともに育つ市民の会支援事業				本年度担当課	生涯学習課
						前年度担当課	生涯学習課
政策体系	基本目標	04	豊かな心を育み、学び合うまちづくり			新規・継続	継続事業
	政策	02	地域とともに学び育てるまちづくり			実施計画・一般	一般事業
	施策	01	生活を豊かにする生涯学習の推進			市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	03	青少年の健全育成			任意・義務	任意的事業
予算科目	会計	款	項	目	予算事業名		事業区分
	一般	10	04	01	佐野市の青少年とともに育つ市民の会支援事業		
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成23年度 ~		
根拠法令・条例等		社会教育法（第11条）、佐野市社会教育関係団体補助金交付要領					

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）												
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）				令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）								
佐野市の青少年とともに育つ市民の会に補助金を交付する。補助金は、この団体の運営費としての性格のものである。  佐野市の青少年とともに育つ市民の会は、佐野市の青少年を地域全体で育成することを目的として設立された団体である。				理事会、総会・研修会の開催（6/25）。市民の会だよりの配布（全戸へ）。「心豊かな青少年を育む市民のつどい」を無観客・録画してケーブルテレビでの放映で実施（12/3）。小中義務教育学校へ親子学び合い事業（スマホ・携帯電話講習会）の支援（3校）								
								活動指標	単位	R3年度（実績）	R4年度（実績）	R5年度（目標）
				補助団体数	団体	1	1	1	1	1		
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）												
（支援対象団体）佐野市の青少年とともに育つ市民の会				対象指標		単位	R3年度（実績）	R4年度（実績）	R5年度（目標）	R6年度（目標）	R7年度（目標）	
				補助対象団体数		団体	1	1	1	1	1	
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）												
佐野市の青少年とともに育つ市民の会の円滑な運営と財政の健全化を図る。				成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
				事業執行率		%	目標	100	100	100	100	100
						実績	100	100				
							目標					
			実績									
④結果（どのような結果に結びつきますか？）												
夢や希望を持ち、心豊かでたくましく成長している。				上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
				研修会等の参加人数（単年度）		人	目標		150	155	160	165
						実績		87				
企画事業への参加者数（単年度）		人	目標		500	600	700	800				
		実績		47								

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費投入量	財源内訳	単位	R3年度（実績）	R4年度（実績）	R5年度（目標）	R6年度（目標）	R7年度（目標）	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	250	250	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	250	250	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					負担金、補助及び	250		
	人件費	職員従事工数	人工	0.25	0.21	0	0	0
	人件費計(B)	千円	1,832	1,530	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	2,082	1,780	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	佐野市の青少年とともに育つ市民の会支援事業	本年度担当課	生涯学習課
		前年度担当課	生涯学習課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和43年に、栃木県青少年育成県民会議が設立され、現在の（公財）とちぎ未来づくり財団にその活動が引き継がれている。平成22年7月現在、県内27市町のうち、22市町で同様団体が設立され、佐野市における市民会議の活動が望まれ平成23年設立に至っている。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	家庭の教育力や地域の教育力の低下が指摘されている状況の中で、地域全体で青少年育成に取り組むことを活動目的とする本団体の必要性は高まるものと思われる。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	当時（財）とちぎ青少年子ども財団の理事長が市長を訪問し、佐野市での設立に向けた市の協力を要請した。栃木県青少年育成指導員から市の設立に向けての協力の申し出と、速やかな設立を求める意見が寄せられた。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
コロナ禍においても、団体関係者と連携し活動することができたため。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
コロナ禍においても団体関係者が連携を密にし、検討して活動できたため。		団体関係者の連携・協働、行政からの支援・指導。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○		
	小				
	成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		二十歳のつどい開催事業				本年度担当課	生涯学習課	
						前年度担当課	生涯学習課	
政策体系	基本目標	04	豊かな心を育み、学び合うまちづくり			新規・継続	継続事業	
	政策	02	地域とともに学び育てるまちづくり			実施計画・一般	一般事業	
	施策	01	生活を豊かにする生涯学習の推進			市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	03	青少年の健全育成			任意・義務	任意的事業	
予算科目	会計	款	項	目	予算事業名			
	一般	10	04	01	二十歳のつどい開催事業			
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	昭和23年度 ~			
根拠法令・条例等		社会教育法						

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）										
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）				令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）						
二十歳のつどい対象者に対し、式典の開催、記念品の配布、およびアトラクション終了後の記念写真撮影を実施する。				令和5年1月8日（日）開催 佐野会場（文化会館）・田沼会場（田沼中央公民館）・生会場（葛生あくとプラザ）の3会場で開催 式典、記念品配布等						
				活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				二十歳のつどい参加者数	人	887	846	800	800	800
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）										
市内在住又は出身、及び佐野市での二十歳のつどい参加を希望する二十歳の方				対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				二十歳のつどい参加対象者数	人	1,107	1,056	1,000	1,000	1,000
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）										
二十歳のつどいの式典において祝い励ますことにより、自己の責任を自覚し、社会的義務を意識付ける。				成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				二十歳のつどい参加率	%	目標 80	80	80	80	80
						実績 80.12	80.11			
④結果（どのような結果に結びつきますか？）										
夢や希望を持ち、心豊かでたくましく成長している。				上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				研修会の参加人数 (単年度)	%	目標 150	155	160	165	
				企画事業への参加者数 (単年度)	人	実績 500	600	700	800	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	726	749	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	726	749	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					報償費	589		
					役務費	66		
				需用費	50			
				委託料	44			
人件費	職員従事工数	人工	0.6	35	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	4,396	255,045	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	5,122	255,794	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	二十歳のつどい開催事業	本年度担当課	生涯学習課
		前年度担当課	生涯学習課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和24年頃から
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	少子化により、対象者が減少している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	式典会場について参加者の意見として、現状通り地区別に市内3か所で行なった方がいいという意見がある。また開催時間について二十歳の方から現在の午前10時開式を支持する意見と、ほかの市民から開始時間を遅らせて欲しいという2つの意見がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない			向上しなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
本市における式典の参加率は8割を超えており、恒例的な催事であることから、現在以上の成果向上の余地はない。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
市HP、及び参加対象者の方に案内はがきを送付することにより参加率の向上を図ったため。		市HP、案内はがきを通し、式典の周知を続けることにより、参加率を維持する。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性		(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大		○	現状維持（従来通り実施）			
				* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。			
	中						
	小						
		大	中	小	成果向上余地		

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		二十歳のつどい企画運営事業				本年度担当課	生涯学習課	
						前年度担当課	生涯学習課	
政策 体系	基本目標	04	豊かな心を育み、学び合うまちづくり			新規・継続	継続事業	
	政策	02	地域とともに学び育てるまちづくり			実施計画・一般	一般事業	
	施策	01	生活を豊かにする生涯学習の推進			市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	03	青少年の健全育成			任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名		事業 区 分	
	一般	10	04	01	二十歳のつどい企画運営事業			
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成6年度 ~		実施方法	直営
							事業分類	支援事業
							市長公約	該当なし
							総合戦略	該当なし
根拠法令・条例等		社会教育法、佐野市社会教育関係団体交付金交付要領						

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）										
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）				令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）						
佐野地区・田沼地区・葛生地区の3会場で開催する二十歳のつどいの企画運営について、二十歳のつどい参加対象者を対象に委員を募集し、自らの二十歳のつどいを企画運営する。				二十歳のつどい企画運営委員 佐野地区12人 田沼地区8人 葛生地区7人 二十歳のつどい企画運営委員会議 全体会・分科会（佐野地区・田沼地区・葛生地区） 会議開催回数 佐野地区5回、田沼地区5回、葛生地区4回						
				活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				企画運営委員会議開催数	回	18	14	15	15	15
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）										
各地区出身の二十歳の方の中から、公募や出身中学校の推薦により決定した企画運営委員を対象とする。				対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				企画運営委員数	人	29	27	28	28	28
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）										
二十歳のつどいを二十歳の方自ら企画し、式の運営に携わることによって、二十歳のつどいの意義を理解し、20歳に相応しい自立心を涵養する。				成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				二十歳のつどい出席率	%	目標 80	80	80	80	80
						実績 80.12	80.11			
④結果（どのような結果に結びつきますか？）										
夢や希望を持ち、心豊かでたくましく成長している。				上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				研修会の参加者人数 (単年度)	%		150	155	160	165
				企画事業への参加者数 (単年度)	人		500	600	700	800
							47			

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	147	145	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	147	145	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					負担金、補助及び	145		
	人件費	職員従事工数	人工	0.36	0.49	0	0	0
	人件費計(B)	千円	2,638	3,571	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	2,785	3,716	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	二十歳のつどい企画運営事業	本年度担当課	生涯学習課
		前年度担当課	生涯学習課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成6年より開始
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	少子化により、対象者が減少してきている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	佐野市補助金等検討委員会より補助継続の提言が出された。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
	現状維持のため対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない			向上しなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
二十歳のつどい参加対象者自らによる、式典の企画運営により、出席率は8割を超えるため、これ以上の出席率の向上は難しい。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
企画運営委員がコロナ禍の状況に適切に対応し、オンライン会議などを開催しながら二十歳のつどいの企画運営を行うことができたため。		委員となった二十歳のつどい参加対象者が企画運営しやすいよう、オンライン会議、リハーサル等でサポートを行う。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中				
	小				
	成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		青少年活動育成促進事業				本年度担当課	生涯学習課	
						前年度担当課	生涯学習課	
政策 体系	基本目標	04	豊かな心を育み、学び合うまちづくり			事業 区 分	新規・継続	継続事業
	政策	02	地域とともに学び育てるまちづくり				実施計画・一般	実計計画事業
	施策	01	生活を豊かにする生涯学習の推進				市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	03	青少年の健全育成				任意・義務	任意的事業
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名			
	一般	10	04	01	青少年活動育成促進事業			
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成14年度 ~			
根拠法令・条例等		社会教育法第(5条の12)						

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)												
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績(令和4年度に行った主な活動内容)								
青少年たちが、話し合いや体験活動を通して交流し、成長していけるよう、青少年同士の連携を支援し、青少年活動の推進、活性化を図る。				青少年ボランティア研修会(全6回) 研修外ボランティア活動(全7回) 期日: 令和4年4月~令和5年3月 会場: こどもの国 研修会及び研修外ボランティア活動の延べ参加者数: 360人								
				活動指標		単位	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(目標)	R6年度(目標)	R7年度(目標)	
				本研修開催数	日	3	6	6	6	6		
②対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)												
市内在住または市内の学校に通う中学生、高校生及び義務教育学校7~9年生				対象指標		単位	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(目標)	R6年度(目標)	R7年度(目標)	
				対象者数		人		4,000	4,000	4,000	4,000	
③意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)												
ボランティア活動への理解と関心を深め、地域活動への意欲を高める。				成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
				ボランティアへの理解を深めた参加者の割合		%	目標	100	100	100	100	100
						実績	100	100				
							目標					
			実績									
④結果(どのような結果に結びつきますか?)												
夢や希望を持ち、心豊かでたくましく成長している。				上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
				研修会等の参加人数(単年度)		人	目標		150	155	160	165
						実績		87				
企画事業への参加者数(単年度)		人	目標		500	600	700	800				
		実績		47								

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(目標)	R6年度(目標)	R7年度(目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	25	52	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	25	52	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					報償費	43		
					需用費	10		
人件費	職員従事工数	人工	0.15	0.21	0	0		
人件費計(B)	千円	1,099	1,530	0	0	0		
トータルコスト(A)+(B)	千円	1,124	1,582	0	0	0		

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	青少年活動育成促進事業	本年度担当課	生涯学習課
		前年度担当課	生涯学習課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成14年度に青年団体活動支援事業を開始した。その成果を踏まえて新たに青年の社会参加促進と高校生ボランティア活動の活性化目的に事業を開始した。 平成19年度から、青年と高校生を、平成21年度から中・高校生の育成とした。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	中学・義務教育学校・高校生が子どもとかかわる活動の場が少なくなってきており、地域子ども育成団体の活動の活性化が望まれている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	この研修のような青少年と地域指導者との交流機会が必要である。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった研修会があったが、令和4年度は計画していた全6回の研修会を実施することができた。			成果向上余地がかなりある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり全5回の活動で述べ127人の参加であったが、令和4年度は全13回の活動で述べ360人の参加実績をあげることができ、青少年のボランティアへの参加機会を広げることができた。		研修会の内容の見直しや実施方法を見直しを行い、参加者のマンネリを防止していく。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中				
	小				
	大 中 小 成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		佐野・芦屋青少年交流事業				本年度担当課	生涯学習課	
						前年度担当課	生涯学習課	
政策体系	基本目標	04 豊かな心を育み、学び合うまちづくり				新規・継続	継続事業	
	政策	02 地域とともに学び育てるまちづくり				実施計画・一般	実計計画事業	
	施策	01 生活を豊かにする生涯学習の推進				市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	03 青少年の健全育成				任意・義務	任意的事業	
予算科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	直営	
	一般	10	04	01	佐野・芦屋青少年交流事業	事業分類	教育・指導事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成6年度 ~			
根拠法令・条例等								

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）										
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方） 親善都市である福岡県芦屋町と佐野市（室町時代から「西の芦屋・東の天明」といわれ並び称される茶の湯釜の産地）の小・中・義務教育学校生が、宿泊研修等を通してお互いの文化を理解し、両市町の交流を促進する。（社会教育法第3条、第5条）	令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）									
	新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、芦屋町と協議の結果、中止とした。									
	活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)			
	交流事業実施期間	日	0	0	6	6	6			
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）										
小学5年生～中学2年生及び義務教育学校5年生～8年生の参加者	対象指標									
	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)				
	参加者数	人	0	0	12	16	20			
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）										
親善都市である福岡県芦屋町と佐野市の小・中学校生及び義務教育学校生が、相互訪問による宿泊学習や様々な体験活動を通して交流を図り、お互いの郷土の文化を理解し、豊かな心を育み、自己管理能力の向上を図る。	成果指標									
	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度				
	%	目標	100	100	100	100	100			
		実績	0	0						
④結果（どのような結果に結びつきますか？）										
夢や希望を持ち、心豊かでたくましく成長している。	上位成果指標									
	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度				
	人	目標		150	155	160	165			
		実績		87						
人	目標		500	600	700	800				
	実績		47							

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	0		0		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	0		0		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	職員従事工数	人工	0.06		0.4		0		0		0
	人件費計(B)	千円	440		2,915		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	440		2,915		0		0		0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	佐野・芦屋青少年交流事業	本年度担当課	生涯学習課
		前年度担当課	生涯学習課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧佐野市と福岡県芦屋町は室町時代から「西の芦屋、東の天明」と並び称される優れた茶釜の産地であり、平成5年、芦屋町の鈴木町長が佐野市を訪問し、鑄物の交流をさせて欲しいとの申し入れがなされた。その翌年から青少年交流事業が実施され、現在に至る。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	合併により対象者は増加している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	参加者や保護者からは毎年好評を得ている。応募者多数となり希望者全員が参加できない事もある。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外。

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
新型コロナウイルス感染症の影響により事業中止となった。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
新型コロナウイルス感染症の影響により事業中止となった。		新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度から事業中止が続いているため、事業再開に向けて開催方法や内容を見直し、検討していく。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中				
	小		○		
	成果向上余地				
	大	中	小		

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		子ども会ジュニアリーダー研修会開催事業				本年度担当課	生涯学習課	
						前年度担当課	生涯学習課	
政策体系	基本目標	04	豊かな心を育み、学び合うまちづくり			新規・継続	継続事業	
	政策	02	地域とともに学び育てるまちづくり			実施計画・一般	実計計画事業	
	施策	01	生活を豊かにする生涯学習の推進			市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	03	青少年の健全育成			任意・義務	任意的事業	
予算科目	会計	款	項	目	予算事業名			
	一般	10	04	01	子ども会ジュニアリーダー研修会開催事業			
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	昭和50年度 ~				
根拠法令・条例等								

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）													
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方） 子ども会活動での中心的役割を担う小学校5～6年生を対象に、集団での宿泊生活や野外体験を通じてジュニアリーダーとしての知識や技術を習得し、子ども会活動の進展及び活性化を図るため研修会を開催する。					令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）								
					新型コロナウイルス感染症の影響等により中止となった。								
		活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)				
		研修実施期間		日	0	0	2	2	2				
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）													
小学校及び義務教育学校5年生から6年生の子ども会会員					対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
					参加対象者		人	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）													
子ども会ジュニアリーダーとしての知識・技能を学び、今後の子ども会活動に生かしてもらおう。					成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
					ジュニアリーダーの役割を理解できた参加者		%	目標	100	100	100	100	100
							実績	0	0				
					研修会参加人数		人	目標	40	40	40	40	40
実績	0	0											
④結果（どのような結果に結びつけますか？）													
夢や希望を持ち、心豊かでたくましく成長している。					上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
					研修会等の参加人数（単年度）		人	目標		150	155	160	165
							実績		87				
企画事業への参加者数（単年度）		人	目標		500	600	700	800					
		実績		47									

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	0		0		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	0		0		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費								
	人件費	職員従事工数	人工	0		2		0		0		0
	人件費計(B)	千円	0		14,574		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0		14,574		0		0		0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	子ども会ジュニアリーダー研修会開催事業	本年度担当課	生涯学習課
		前年度担当課	生涯学習課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和50年頃に子ども会におけるジュニアリーダーを育てようという動きが全国的に広がっていった事を受け、旧佐野市で開催され、現在に至っている。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	少子化や地域コミュニティの衰退が社会問題化しているなか、ジュニアリーダーを中心として子ども会活動が活性化することは、青少年の健全育成はもちろん、地域の教育力の向上にもつながる。 研修会修了者が地域の青少年教育活動に参加している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善（コストの見直し）	現状維持により対象外。

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	業務の一部を委ねられる・委ねられる可能性がある	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	向上しなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
事業中止となったため。			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
事業中止となったため。		事業再開に向けて開催方法や研修内容の見直し、検討をしていく。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中				
	小		○		
	成果向上余地			大 中 小	

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		子ども会育成者研修講座開催事業				本年度担当課	生涯学習課
						前年度担当課	生涯学習課
政策 体系	基本目標	04	豊かな心を育み、学び合うまちづくり			新規・継続	継続事業
	政策	02	地域とともに学び育てるまちづくり			実施計画・一般	一般事業
	施策	01	生活を豊かにする生涯学習の推進			市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	03	青少年の健全育成			任意・義務	任意的事業
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名		事業区分
	一般	10	04	01	子ども会育成者研修講座開催事業		実施方法
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	昭和51年度 ~		事業分類
						市長公約	該当なし
						総合戦略	該当なし
根拠法令・条例等 なし							

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)								
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)						
子どもたちの健全育成と子ども会活動の一層の活性化を図るため、子ども会の育成者を対象に、育成者としての基本的な知識や技能を習得できるよう研修会を開催する。		新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、事業中止となった。						
		活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
		研修会実施期間	日	0	0	1	1	1
	打合せ回数	回	0	0	1	1	1	
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)								
子ども会育成者・指導者		対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
		子ども会育成者	人	4,676	3,930	3,950	4,000	4,050
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)								
子ども会育成者・指導者としての知識や技能を学び、子ども会育成会のより良い育成者・指導者となってもらおう。		成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		参加者数	人	目標 60 実績 0	60 0	60	60	60
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)								
夢や希望を持ち、心豊かでたくましく成長している。		上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		研修会等の参加人数 (単年度)	%	目標 実績	150 87	155	160	165
		企画事業への参加者数 (単年度)	人	目標 実績	500 47	600	700	800

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	0	0	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	0	0	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	職員従事工数	人工	0.3	0.3	0	0	0
	人件費計(B)	千円	2,198	2,186	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	2,198	2,186	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	子ども会育成者研修講座開催事業	本年度担当課	生涯学習課
		前年度担当課	生涯学習課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	子どもたちの体験活動を通じた健全育成に、保護者や地域の大人が指導者としてかわり、技術を学ぶ機会を設けるために、昭和51年に旧佐野市で開始した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	少子化や地域コミュニティの衰退が社会問題化する中、青少年の健全育成だけでなく、地域の教育力向上にもつながるこの事業の重要性が増している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	内容については佐野市子ども会連合会等関係団体と協働で企画運営しており、参加者から好評を得ている。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善（成果向上の見直し）	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、事業中止となった。

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、事業中止となったため。			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、事業中止となったため。		参加者数の増加を図れるように共催団体と協議を行い、研修内容の精査を行う。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性		(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施）			
	中			* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。			
	小		○				
		大	中	小	成果向上余地		



**B表（事後評価シート）**

事務事業名	青少年相談事業	本年度担当課	少年指導センター
		前年度担当課	少年指導センター

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	佐野市少年指導センターが、昭和49年に設置されたのと同時に開始された。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	青少年を取り巻く環境は複雑化し、パソコンやスマートフォン等の発展とともに、インターネットを通じた新たな有害環境も出現しており、青少年が被害者や加害者となる恐れが身近になっている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業があり統合・連携できている	教育相談事業（教育センター所管）	成果向上余地がある程度ある	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中				
	小				
		大	中	小	成果向上余地

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		学童野球・ソフトボール振興会支援事業				本年度担当課	少年指導センター
						前年度担当課	少年指導センター
政策体系	基本目標	04	豊かな心を育み、学び合うまちづくり			新規・継続	継続事業
	政策	02	地域とともに学び育てるまちづくり			実施計画・一般	一般事業
	施策	01	生活を豊かにする生涯学習の推進			市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	03	青少年の健全育成			任意・義務	任意的事業
予算科目	会計	款	項	目	予算事業名		事業区分
	一般	10	04	06	学童野球・ソフトボール振興会支援事業		
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	昭和60年度 ~		
根拠法令・条例等							

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)								
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)						
佐野市学童野球・ソフトボール振興会へ補助金を交付し、会の円滑な運営等が図れるよう支援を行う。		(市の活動) 振興会に補助金として80千円を交付。						
		(振興会の活動) 秋季学童野球大会・少女ソフトボール大会を開催。						
		活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
		補助団体数	団体	1	1	1	1	1
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)								
佐野市学童野球・ソフトボール振興会		対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
		補助団体数	団体	1	1	1	1	1
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)								
学童野球大会等の開催を支援することにより、スポーツを通して、青少年の健全な育成を図る。		成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		事業執行率	%	目標 実績	100 100	100	100	100
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)								
青少年が、夢や希望を持ち、心豊かでたくましく成長している。		上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		研修会等の参加人数 (単年度)	人	目標 実績	150 87	155	160	165
		企画事業への参加者数 (単年度)	人	目標 実績	500 47	600	700	800

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	80	80	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	80	80	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					負担金、補助及び	80		
	人件費	職員従事工数	人工	0.02	0.01	0	0	0
	人件費計(B)	千円	147	73	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	227	153	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	学童野球・ソフトボール振興会支援事業	本年度担当課	少年指導センター
		前年度担当課	少年指導センター

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	青少年の非行が顕著になったため。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	スポーツ活動に対する興味を示す子どもが少なくなるなか、サッカーなどの競技に興味があり、野球・ソフトボールに興味を示す子どもが減少し、競技人口も減っているものの、根強い人気がある。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	団体の収支決算書を精査し、自主財源での運営が可能か検討したが、参加者が青少年であり、用具費等の経費も掛かることから、更なる参加費の増額は困難であるとの結論に至った。

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
令和4年度は団体の計画予定どおりに事業開催したため			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
団体が、新型コロナ禍の社会情勢に適切に対応しながら事業を実施したため		引き続き補助金の交付と合わせ、適時適切な助言や支援を行う	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○		
	小				
		大	中	小	成果向上余地

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		安足地区青少年育成連絡協議会参画事業				本年度担当課	少年指導センター	
						前年度担当課	少年指導センター	
政策 体系	基本目標	04	豊かな心を育み、学び合うまちづくり			新規・継続	継続事業	
	政策	02	地域とともに学び育てるまちづくり			実施計画・一般	一般事業	
	施策	01	生活を豊かにする生涯学習の推進			市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	03	青少年の健全育成			任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名			
	一般	10	04	06	安足地区青少年育成連絡協議会参画事業			
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	昭和49年度 ~			
根拠法令・条例等								

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方) 安足地区青少年育成連絡協議会へ負担金を支出する。				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)							
				(市の活動) 協議会へ負担金を支出。総会、研修会、立入調査等へ参加。負担金32千円 (協議会の活動) 研修会、立入調査等の開催。							
		活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)		
		研修会等開催数		回	5	5	5	5	5		
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)											
①少年補導員、少年指導センター職員 ②参画対象団体				対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				少年補導員人数		人	71	71	75	75	75
		事務局職員人数		人	4	4	5	5	5		
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)											
青少年の実態や健全育成活動の情報を収集し、今後の活動のレベルアップを図る。				成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				研修会等に参加した回数		回	目標 5	5	5	5	5
					実績						
					目標						
					実績						
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)											
夢や希望を持ち、心豊かでたくましく成長している。				上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				研修会等の参加人数 (単年度)		%	目標 150	155	160	165	
		企画事業への参加者数 (単年度)		人	目標 500	600	700	800			
					実績 47						

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	32		32		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	32		32		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費								
					負担金、補助及び	32						
人件費	職員従事工数	人工	0.03		0.03		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	220		219		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	252		251		0		0		0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	安足地区青少年育成連絡協議会参画事業	本年度担当課	少年指導センター
		前年度担当課	少年指導センター

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	少年補導員の資質向上を目的に、安足地区レベルでの研修会に参加し始めた。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	青少年を取り巻く環境の悪化、犯罪の低年齢化が顕著になり、従前の知識・認識では対応が困難である。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	研修会に参加したいが、開催日が平日ということもあり、仕事を休むのが困難であり、参加しづらい。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
令和4年度は団体の計画予定どおりに事業開催したため			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
団体が、新型コロナ禍の社会情勢に適切に対応しながら事業を実施したため		引き続き補助金の交付と合わせ、適時適切な助言や支援を行う	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中				
	小				
	成果向上余地				